



へ12
3012

特

昭和九年
七月九日
購求

遊仙
奇遇

錦乃里卷之二

江戸

為永春水著



第三回

再説法推々々一人座敷の挿花女あめり侍々々々々
とてく居る所へ玉出来る昔花の姿と似あふさらりて
あまきぬすむふきよせちうさくらあやすえん
沙美風の吹馬の中形は孺子の津路の掛り花さき
まども表の地の端端あめり志水やうめく下巻の細
由がらあたままゆらひがらあめりゆりりすこさき
長門津の藤々々々船端の湯泉は少く下巻の細



両女別人ありて
 乙女姿に
 粧更

と被^らりし^し知^ちりし^し心^この^のお^おも^もい^いへ^へ妻^{つま}女^めの^のゆ^ゆら^らな^なり^りか
し^しか^か目^めみ^みか^かる^るの^のか^か何^{なん}れ^れも^もな^なら^らず^ずあ^あら^らじ^じに^にま^ませ^せう^う 似^に合^あ
あ^あの^の乙^{おとこ}女^めの^の風^{かぜ}は^は心^{こころ}を^をな^なめ^めて^て程^{ほど}電^{でん}を^をあ^あら^らす^すま^まひ^ひえ^え 話^{はな}ど^どう
し^して^てく^くし^しの^の女^{おんな}天^{あま}さ^さら^らな^なども^もあ^あら^らじ^じに^にま^ませ^せう^う 似^に合^あ
私^{わたし}ど^どう^うな^なら^らず^ず洗^{せん}髪^{かみ}を^をお^おな^なども^も私^{わたし}と^とお^おな^なども^もあ^あら^らじ^じに^にま^ませ^せう^う 似^に合^あ
今^{いま}の^の惜^{おぼ}し^しみ^みの^のあ^あら^らじ^じに^にま^ませ^せう^う 似^に合^あ

う^うら^らな^なら^らず^ずし^して^てく^くし^しの^の女^{おんな}天^{あま}さ^さら^らな^なども^もあ^あら^らじ^じに^にま^ませ^せう^う 似^に合^あ
洗^{せん}髪^{かみ}を^をお^おな^なども^も私^{わたし}と^とお^おな^なども^もあ^あら^らじ^じに^にま^ませ^せう^う 似^に合^あ
今^{いま}の^の惜^{おぼ}し^しみ^みの^のあ^あら^らじ^じに^にま^ませ^せう^う 似^に合^あ

そのの... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text) ...の... (mirrored text)

Handwritten characters at the bottom of the left page, likely a page number or reference.

子そまを由おま人の移る思女にまけてはまゝのめろ
 ぞお苗あふがまん不移が力があくそ由さよとては
 お花抱く天井へきあびてまゝとづも小意のめ
 裾衣まきそて二人とも一夜に傷れしは
 何所らも痛めは放このをばいしまゝ
 あるがにお花と痛めまのこめつとくつとめつと痛が
 くもてあゝまゝお花私に世ごとくお痛めそめま

せんのお花へつゆは流す推の物故から申しき指さく
 志げくおまをりさくお花マ大さうお痛気があはしますね
 何ぞおまをよませうお花マニそま秘のひまもあつた
 笑つて居るお花マそまを由まふおんおが熱くなり
 ままそお花が昔の方をばいしませよマ独あつたうら
 ましつかけお花を放よお花あびまきうらト用意の
 江戸よりお花を放のほろお花あちまの行きに白湯を

汲みぎょう 花はないふはなはかきんあはらひままよよ飯いひみよき津つききは
あまのあまの伊勢屋いせや伝でんふふああとりのあまのうう実みままるる同どう
ト実み令れい彦ひこでも他家よそのと違ちがひひと香かう気き由よし別べつ腹はらはは能よ
あまのまますすヨヨああままででおおくくるるややおおににらら白しろひひででト
おお花はなががふふゆるゆる二に粒つぶのの葉はととままちちああままららトトキキニニ他たままりりのの夜よぎぎふ
けけんんおお眠ねるるららうう一いちニに私わたしをを多た量りょうののおおびびくくららおおまませせん
がが夜よののゆゆげげままをを祈いの為ためののゆゆ一いちままくくあありりままししららおお茶ちや
ニヤニヤ

さんもお風かぜははめめののここららいいうううううううううううううううううう
私わたしががおお側そばででおおををああししぬぬととおおままりりうううううううううううううううう
かかみみさんさんおおままりりのの病いねねののかかおおままりりかかああららむむおおままりりおおままりり
ほほぐぐひひめめののおおままりりまませせんんぜぜ花はなアアササ左さねねむむららののああののまませせん
私わたしのの今いまのの夜よのの病いねねののかか惜おぼししううここららいいまませせゆ
ののヲヲほほナナアアニニ私わたしがが気き味あじががここららいいうううううううううううううううううう
ののここららいいササトト私わたしををいいかかららおおままりりせせととももうういい方かたハハおおままりり入い

ヨト 渡^{せが}雅^が後^ご 侍^{さむらひ}の 先^{さき}も 立^たま^まう^け 帰^{かえ}ら^ぬ 連^{つら}て^おる^さ
ま^の 渡^{せが}雅^がの 身^みに 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ}と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
た^まま^の 此^{この} 業^{わざ}も 万^まの 事^{こと}も 成^なら^ぬ 巫^{まじ}の 山^{やま}の 神^{かみ}が 故^{ゆゑ}の
ま^の 心^{こころ}の 悟^{さと}り 傳^{つた}へ 渡^{わた}り 勢^{せい}が 托^{たく} 仙^{せん} 窟^{くわ}も 久^くく 弁^わか^らぬ^れ
あ^がら^ぬ 糸^{いと}の 仙^{せん} 人^{ひと}も 手^て 理^りさ^うと 老^らと 自^{みづか} 身^み 心^{こころ}に 由^より 一^{いつ} 一^{いつ} さ
ら 不^ふ 交^か 渡^{わた} 友^{とも} か^の け^り 又^{また} 凡^{たゞ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ}と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
か^の 採^とり ぬ^り 花^{はな}の 夜^よ 渡^{わた} る^{もの} と 奇^き 事^{こと} ひ^ひ 乙^{おと} 女^め の

ま^の 心^{こころ} 托^{たく} 年^{ねん} 友^{とも} 回^わ 忘^{わす} ら^ぬ す 心^{こころ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ} と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
よ^の 心^{こころ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ} と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
ま^の 昔^{むかし} 城^{しろ} の 神^{かみ} も あ^ら ず 由^{よし} 礼^{れい} せ^る 姿^{すがた} 我^{われ} 男^{おとこ} に 見^み せ^し
し^の や ま^の 心^{こころ} 是^{こゝろ} 命^{いのち} ぬ^れ 渡^{わた} 雅^が の 麻^{あし} 身^み 心^{こころ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ} と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
そ^の う^に 鳥^{とり} 心^{こころ} 押^{おし} 身^み 完^{かん} 心^{こころ} と 笑^{わら} 身^み の ま^ま 心^{こころ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ} と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
隣^{となり} の 心^{こころ} 心^{こころ} 採^と 心^{こころ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ} と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
ま^の 心^{こころ} 心^{こころ} 採^と 心^{こころ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ} と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の
誰^{たれ} も 来^き る^{もの} 心^{こころ} 所^{ところ}ら^ぬ 心^{こころ} と 辨^わか^らぬ^れ 物^{もの}の

いんぐまを愛護するお花を愛ひながら、あかりよ
きんぐまとも袂ヨこまのあかでのわりませんはるも松が
あさんごのお花を知りて清雅さんでございませぬ
とございませぬ及理でお花さんが嬉しうな思ひ
お花ごの「お花を愛ふお花へ」
お花さん、お花の何故か遠くへお花を清雅さんの
見さんごの中へお花へお花へお花へお花へお花へ

お花を愛ふことも流人が清雅さんお花を愛ふことも
お花へ「お花を愛ふお花へ」お花へお花へお花へ
にお花を愛ふことも「お花を愛ふお花へ」お花へお花へ
も他人の中へお花を愛ふお花へお花へお花へお花へ
お花を愛ふお花へお花へお花へお花へお花へお花へ
同志のお花を愛ふお花へお花へお花へお花へお花へ
お花を愛ふお花へお花へお花へお花へお花へお花へ

さえとつとまらるる最どのあのヨホ...
 は処子居るののあはれさんあはれ姉とさんと云れども
 仕方があのヨ今日のあはれさんの血化粧...
 女一同はお花の乙女姿...
 めんはねく私達の先刻...
 マルくわどけなくお花ごねく杜若のお家...



二ノキニナリ

私こゝろの思おもとてえんのそねそんちる浮うき居い成なりするしつゝの種こゝろひでござい
ひまひまのそねそんは内うち家いえさんさんが申まをすううそねそんちる様よう
意い幕まくら成なりは取とりての目めしつゝ「まホほそまは成なりる子こ七しちの
おろおろく内うち家いえさんさんの則すなはちお花はなさんさんがねねくももく内うち家いえさんさんごの娘むすめ
そねそんちるお隠かくししも由よしに知しるままくサさく隠かくささぶぶお云いて
お花はなさんさんのヨよそままとてああのと清せい雅がさんさんと申まをすおちちの種こゝろ人ひと
ううああが種こゝろ人ひと 美みままホほくく 美みままの種こゝろ人ひとのこころろひ

二七五十五

ああと成なりささくおおののどどああと種こゝろ人ひとを種こゝろ人ひとちち方かたがああひひくく
りりんんがが子こ「まサさ照てい白はくふふおおままるるサさくく 美みわわんんととううのの子こ「
お花はなさんさんの今いま申まをすすののままで始はじめめおおううととさんさんおお花はな
ののく 美みままの種こゝろ人ひととておおれれ美み佳よしのの子こををままに遠とほひひおおて
まませんヨよトとから親おやさまさまを申まをすの中なかの申まをすののいいんんどどももののううららくく
現いま成なりては内うち家いえの隠かくししののああひひがたたままめめささくく知しりり
ひひの中なかに只ただ一人ひとり酒さけののああひひで花はなののああひひよよ碎くだるる様ようのの友とも

きり 見え よめち ぞうちやう そのよと 目
懐ひサ 何れも世に用ひらるると増長しくそえん
まろろろ 香ありあり 今も今も 花小流のい何れか
りやうに あらうらうら子 凡そ 曲の 後が 上の 世に
まろのい 芝居小限り子 その芝居を 弘まのて 名も出
まろろろ 新津 理由も 出来この 残りすれサ そのまア
中へ 送入るるるるが 芝居へ 出たは 引かあるら 合終へ
とろ 後が 目りい ともい 意味 深き 由 わらう けと 何れ

由 徳意と のよ 電報 残るらるる 残へ 中らうりて 世に
がひの のの サ え 残りす 且て なるの の 意 今
とろ 花 一アサ お 葉きんも まこ 地の けらうら 中 勝
とろ 止 花 後へ 一アサ けらうら けり 今 由 芝居
とろ 花 葉きん の お 世の の 只 葉きん けらうら けり
とろ 花 葉きん の お 世の の 只 葉きん けらうら けり
とろ 花 葉きん の お 世の の 只 葉きん けらうら けり
とろ 花 葉きん の お 世の の 只 葉きん けらうら けり

アウセもよ久々く後ひきせんうう世に下るまの所也
ありそらう心ひびきまきわおれさん物事ぞお前さん後
て来ますよ 私私が強く後本の松ふちうりまはも
のす その「は豆は立は」方松でいぶらひませんヨ 洋船ごらふお
来ませんのか前さんが知らずおまおなるのが幸ひで
ざりますうう物事 花「は花は多くが洋船をまかせん
えんお 花「は花は多くが洋船をまかせん
福也の松ヨト 二味線の調子と合せん 花「は花は多くが

ふくがはでまゝくおんあさいヨ 物事を増うと私やアお
前さんやどの程強かりませんか その「は花は多くが洋船の西の海
よらうませうト 完承日らふおれ死由知ひるがう
おろくろくようらうト 二味線を強がる
「は花は多くが洋船よれとを乃福ありれみまめさえ
あまのりふ後の喜のあまのき。おろくろく
福も門鬼の介面よ退出さすと思ふと

おふき道の

おふき道に
おふき道の
おふき道の
おふき道の
おふき道の
おふき道の
おふき道の
おふき道の
おふき道の
おふき道の

錦の里巻之二終

三ノ目

